発達障害のある人の就労支援・自立支援

信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室
附属病院子どものこころ診療部
長野県発達障がい情報・支援センター「といろ」
本田秀夫

わが国の法制度における他の障害との関係

身体障害

身体障害者福祉法（S24）

精神障害

精神衛生法（S25）
精神保健法（S62）
精神保健福祉法（H7）

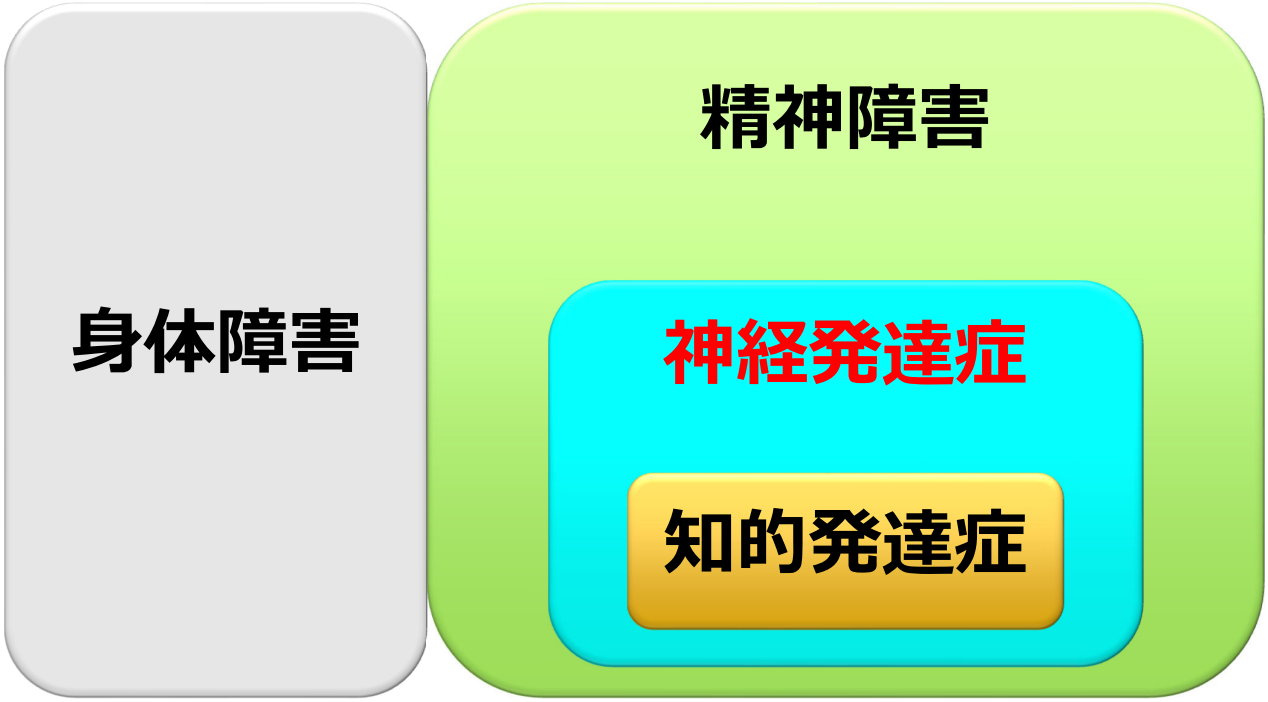
知的障害

精神薄弱者福祉法（S35）
知的障害者福祉法（H10）

発達障害

発達障害者支援法（H16）

医学概念としての神経発達症の位置づけ



神経発達症群（DSM-5-TR）

知的発達症群
知的発達症など

コミュニケーション症群
言語症，語音症，小児期発症流暢症（吃音），
社会的（語用論的）コミュニケーション症など

自閉スペクトラム症（ASD）

注意欠如多動症（ADHD）

限局性学習症（SLD）

運動症群
発達性協調運動症（DCD），常同運動症など

チック症群
持続性（慢性）運動または音声チック症など

他の神経発達症群

法制度の「知的障害」

法制度の「発達障害」

発達障害とは？

- 行動特性になんらかの特記すべき異常がある
- その異常は乳幼児期からみられ，成人後も残る
- その異常が要因となって，生活に支障をきたす

発達障害の共通事項

- 得意な領域と苦手な領域の差が大きい
- 得意な領域や本人が苦にせず取り組める課題を中心にカリキュラムを編成する
- 苦手な領域については本人の努力だけで克服させようと求めない
- 苦手な領域については，補助的な手段を用いてカバーするのが有効なことがある

注意欠如・多動症
（attention-deficit/hyperactivity disorder; ADHD）

- **不注意**

  気が散りやすく集中することが苦手，忘れ物やミスが多い，ボーっとしているなど

- **多動性・衝動性**

  落ち着きがない，いつも身体のどこかが動いている，何か思いついたらいてもたってもいられないなど

学習障害
（learning disabilities; LD）

知的発達には遅れがないにもかかわらず，知的水準に比べて字を読む，書く，計算するなどの学習が著しく苦手。

発達性協調運動症
（developmental coordination disorder; DCD）

- 全身を使った運動や手先などの微細な運動などのいずれか，またはすべてにおいて，複数の身体の動きを協調させることがうまくいかないため，日常生活に支障をきたす
- 物を運ぶ作業や手先を使った細かい作業などが不器用で苦手という場合もある
- DCDが主たる原因で字がうまく書けない人もいる

自閉スペクトラム症
（autism spectrum disorder; ASD）

- 臨機応変に対人関係を調整することが苦手
- 自分の関心・やり方・ペースの維持を最優先させたいという本能的志向が強い

自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害
(Autism Spectrum Disorder ; DSM-5-TR)

A. 社会的コミュニケーションおよび対人的相互反応の持続的な欠陥
(1) 相互の対人的-情緒的関係の欠落
(2) 非言語的コミュニケーション行動を用いることの欠陥
(3) 対人関係を発展させ，維持し，理解することの欠陥

B. 行動，興味，活動の限局された反復的な様式(以下の少な
(1) 常同的／反復的な運動，物の使用，会話
(2) 同一性への固執，習慣への強いこだわり，言語／非言語的
(3) 強度や対象が異常で，きわめて限定され執着する興味
(4) 感覚刺激への過敏さ／鈍感さ，環境の感覚的側面への並外れた興味

C. 症状は発達早期に存在(対人的要求が本人の能力の限界を超えるまでは明らかにならないか，学んだ処世術で隠れるかも)

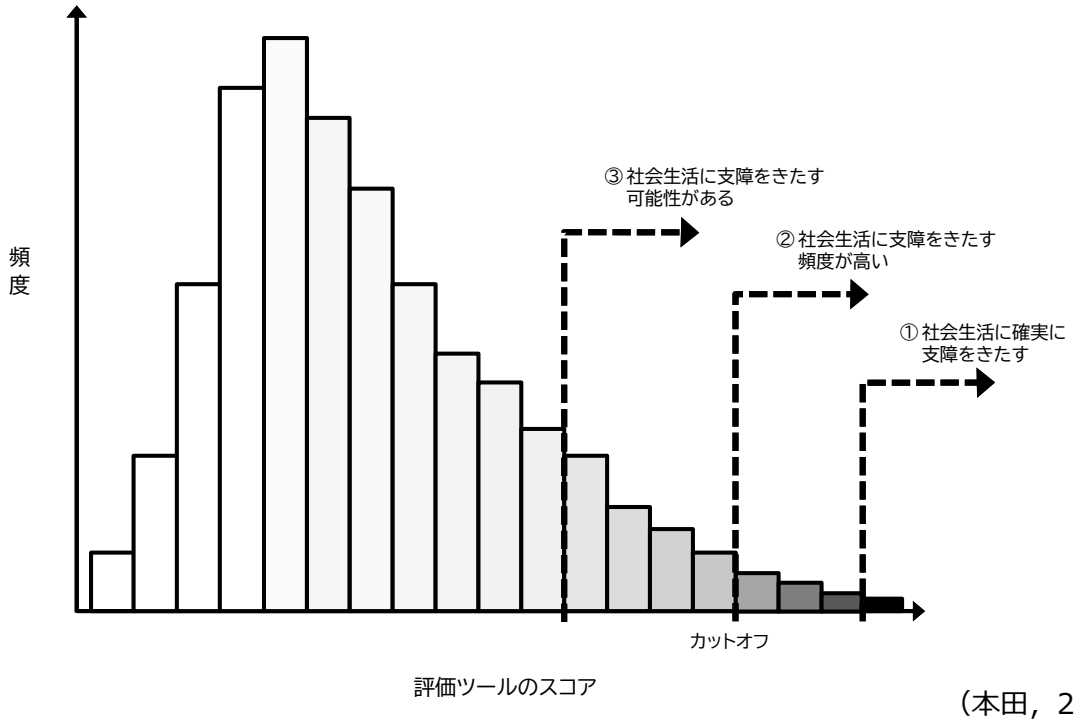
D. 症状は社会的，職業的，他の重要な領域で臨床的に意味のある障害を引き起こす

E. 知的能力障害(知的発達症)または全般的発達遅延では
障害としばしば併存し，併存診断するのは全般的な発達レ
ケーションが低いとき

自閉スペクトラム
(Autism Spectrum)
の特性

自閉スペクトラム症
(Autism Spectrum Disorder)
の診断

神経発達症の評価ツールにおける
症状のカットオフと社会生活の支障との関係のイメージ



(本田，2024)

グレーとは
白ではなくて
薄い黒

本田秀夫
（61歳・男性／長野県）

質問項目に対して学級担任等が回答した内容から，
「学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒数の割合

＜小学校・中学校＞[1]

	推定値（95%信頼区間）
学習面又は行動面で著しい困難を示す	8.8%（8.4% ～ 9.3%）
学習面で著しい困難を示す	6.5%（6.1% ～ 6.9%）
行動面で著しい困難を示す	4.7%（4.4% ～ 5.0%）
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	2.3%（2.1% ～ 2.6%）

＜高等学校＞

	推定値（95%信頼区間）
学習面又は行動面で著しい困難を示す	2.2%（1.7% ～ 2.8%）
学習面で著しい困難を示す	1.3%（0.9% ～ 1.7%）
行動面で著しい困難を示す	1.4%（1.0% ～ 1.9%）
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	0.5%（0.3% ～ 0.7%）

※「学習面で著しい困難を示す」とは、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」の一つあるいは複数で著しい困難を示す場合を指し、一方、「行動面で著しい困難を示す」とは、「不注意」「多動性－衝動性」、あるいは「対人関係やこだわり等」について一つか複数で問題を著しく示す場合を指す。

（文部科学省：通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について。2022）

義務教育段階児童生徒のうち特別な配慮を要する割合

児童生徒の属性	割合（%）
特別な配慮を要すると思われる児童生徒	13.0
特別支援教育を受ける児童生徒	6.3
特別支援学校	0.9
特別支援学級	3.7
通常の学級（通級による指導）	1.7
特別支援教育を受けていない児童生徒	*6.7

＊文部科学省の複数の資料から演者が計算

通常の学級に在籍：
100（全児童生徒）
－0.9（特別支援学校）
－3.7（特別支援学級）＝**95.4%**

うち，特別な配慮を要する：
95.4×0.088 ＝**8.4%**

うち，通級による指導を受けていない：
8.4－1.7 ＝**6.7%**

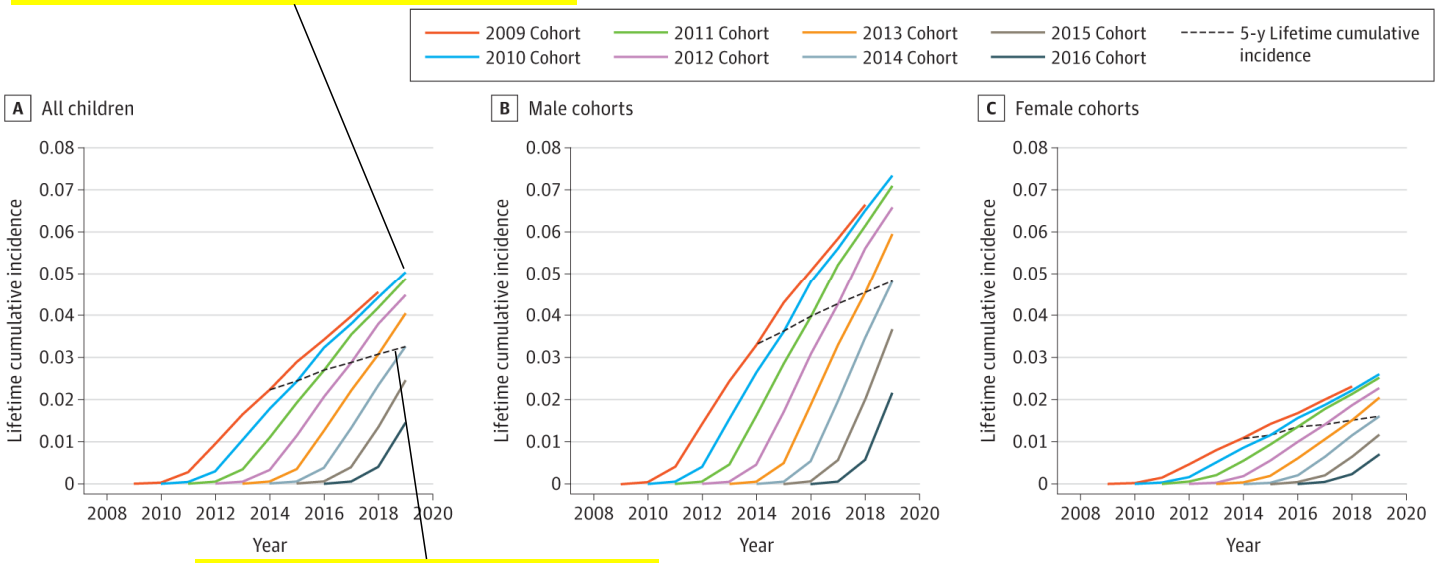
（本田による試算）

JAMA Network™

自閉スペクトラム症と診断された子どもの累積発生率の年次推移

（2009年度～2016年度生まれ）

9歳までの累積発生率が5%に達した



5歳までの累積発生率は約3%

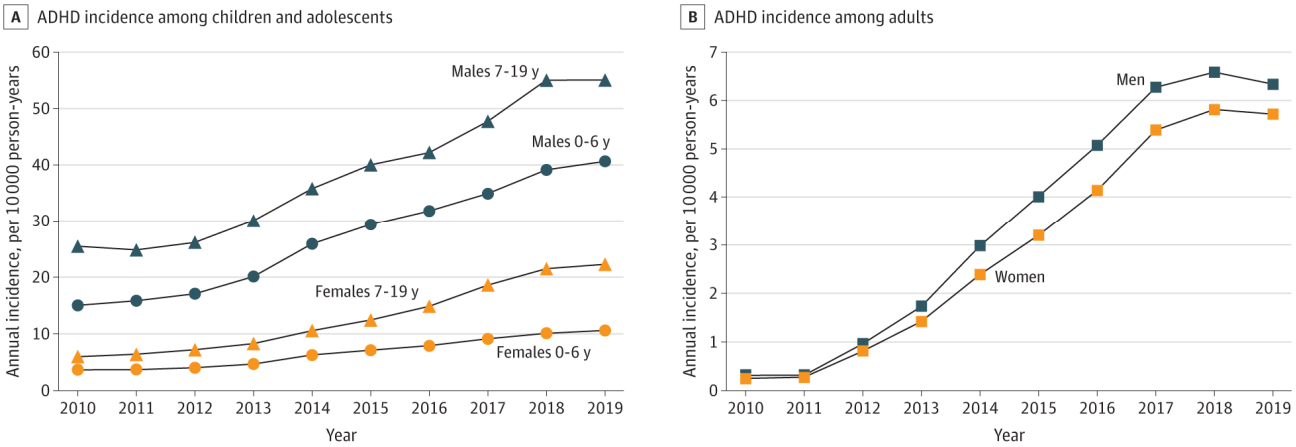
（レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を用いた調査）

(Sasayama et al: JAMA Network Open, 2021)

JAMA Network™

わが国におけるADHD診断の発生率の年次推移

（2010年度～2019年度）



新たにADHDと診断された割合の，2010年度から2019年度にかけての増加率：

0 歳～ 6 歳　：2.7 倍　（女 2.9 倍，男 2.7 倍）

7 歳～ 19 歳 ：2.5 倍　（女3.7 倍，男2.2 倍）

20 歳以上　　：21.1 倍 （女22.3 倍，男20.0 倍）

（レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を用いた調査）

(Sasayama et al: JAMA Network Open, 2022)

小児期から成人期にかけての変化

知的障害

- **就学後に知能が大幅に上昇する症例は稀である**

自閉スペクトラム症

- **対人行動の質的異常は，軽減するがゼロにはならない**
- **興味の限局やこだわり行動は，対象や様式を変えながら持続する**

注意欠如多動症

- **多動・衝動性は，軽減するがゼロにはならない**
- **不注意症状は，青年期・成人期の方が問題となりやすい**

発達障害本来の特性とそうでないもの

本来の特性

- 対人関係・コミュニケーション・活動のパターン化・こだわり・感覚の異常 （ASD）
- 多動・衝動・不注意 （ADHD）
- 読字・書字・計算 （SLD）
- 粗大運動・微細協調運動 （DCD）

本来の特性ではないもの

- 感情・情緒の変動
- 睡眠の異常

神経発達症の「症状」は，自然経過で悪化はしない

ほとんどの場合，悪化しているのは環境との相性

- クラス替え
- 部署の異動
- 担任・上司の交代
- 教育方針の変更
- 友人の態度の変化　など

「選好性（preference）」からみた自閉スペクトラム

関心

特定の物に強い興味をもつ
（反面，それ以外の物にはほとんど興味がない）

やり方

特定の手順を繰り返すことにこだわる
常同的な動作を繰り返す

ペースの維持

他者にペースを乱されたくない

過剰適応

自分が置かれた環境に合わせようとして，自分の考えや行動を合わせすぎてしまう状態。

ASDの人に見られやすい過剰適応：

- 猪突猛進　　：頑張り過ぎる
- 過剰なルール遵守　：臨機応変な対応をしない
- 過剰な遠慮　　：正当は主張や要求をしない
- カモフラージュ　　：ASDの特性を隠そうとする

神経発達症の人たちの対人関係：
「できない」より「疲れやすい」

- 対人関係は，一般の人の何倍も疲れる
- 楽しく過ごしても，後から疲れを感じる
- 大人でも，仕事はよくできるのに週5日働くと疲れが取れない人がいる

記憶力と想像力との乖離

記憶力

- 興味があることと体験したことは細部まで記憶して，記憶が薄れにくい。
- 逆境体験をとくに強く想起しやすい。

想像力

- 他者の事情，未体験のこと，これから起こりそうなことを想像することが苦手。

ハラスメント被害のハイリスクとしての神経発達症

個人のレベル

- クローズの場合：「変わり者」としていじめられる・排除される
- オープンの場合：「障害者」としていじめられる・排除される

制度のレベル

- 特別支援教育の対象児童・生徒の参加機会を保障しない
- 障害者雇用で採用した人の待遇を低くする

文化のレベル

- マイノリティにとって抑圧的な文化：ex.「郷に入っては郷に従え」
- 発達特性にとって不利な社会常識：ex.「あいさつは基本」

ハラスメント加害のハイリスクとしての神経発達症

個人のレベル

- 自分への攻撃から防御しているつもりで相手にハラスメントを加える
- ハラスメントや虐待の連鎖に飲み込まれる

制度のレベル

- 特別支援教育の対象児童・生徒を差別する
- 後輩・部下・非正規雇用職員を差別する

文化のレベル

- 差別的な社会文化を素直に吸収して無自覚に実践する
- マイノリティへの差別的な思想に染まり，固執する

神経発達症はストレス因関連障害のハイリスク

- 本来は，独自のアイデンティティと自己肯定感を持ってしかるべき
- しかし，多数派向けに調整された社会の枠組みの中でストレスや逆境体験に晒されるリスクが高まる

成人期の神経発達症：3通りのパターン

1．特性に応じた育ち方をして情緒的に安定　：教育，福祉

- 診断されることもなく平均的な生活を営む
- 学校卒業と同時に障害者雇用または福祉的就労

2．逆境体験のため，情緒的に不安定　：医療，司法，若者サポート

- 青年期までに精神科受診し，成人後も精神科通院
- ときに犯罪，非行，ひきこもりなどの問題が出現

3．就労後に課題が露見し，精神症状が出現　：労働，医療，福祉

- 職場対応（休職，異動），離職，転職が課題
- 精神科受診が必要となる

架空事例Aさん：25歳男性

- 幼児期にASDと診断され，療育を受けた。
- 通常の小学校，中学校，高校を卒業し，卒業と同時に電機メーカーに正社員として就職した。
- 誰に対しても臆せず問題の指摘や提言を行う積極性を買われて，入社5年目で同期で最初にチーフとなった。
- コンピュータ端末の操作法のマニュアルを自ら作り，好評を博した。
- チーフになってからはときどき飲み会を企画し，後輩たちに奢っている。
- 趣味は，アイドルの推し活，ゲーム，動画視聴。

架空事例Bさん：24歳男性

- 幼児期にASDおよびADHDと診断され，療育や特別支援教育（通級指導教室）を受けた。
- 普通高校，私立大学を卒業。大学時代は成績は上位。鉄道サークルで幹部も務めた。
- 就職活動は難航。なんとか採用されたメーカーに事務職として就労した。
- 電話対応が苦手，予定外の業務を急に言われると優先順位がつけられずに何もできなくなる。
- 上司からたびたび注意を受け，半年ほどして出社できなくなった。

Y-LABiC Study
（Yokohama - Longitudinal Autism Birth Cohort）

- 横浜市港北区で1988年～1996年に生まれた31,426名中，7歳までにASDと診断された278名(0.88%)の長期追跡調査
- 調査期間　2017年5月～2020年3月

➡ 電話で連絡がとれた　189名

➡ 研究への参加を承諾した　170名　フォローアップ率 (61.2%)

- 170名中113名(66.4%)は，幼児期から調査時点まで継続して発達精神科医と公認心理師によってフォローをうけていた

(Iwasa et al: J Child Psychol Psychiatry, 2022)

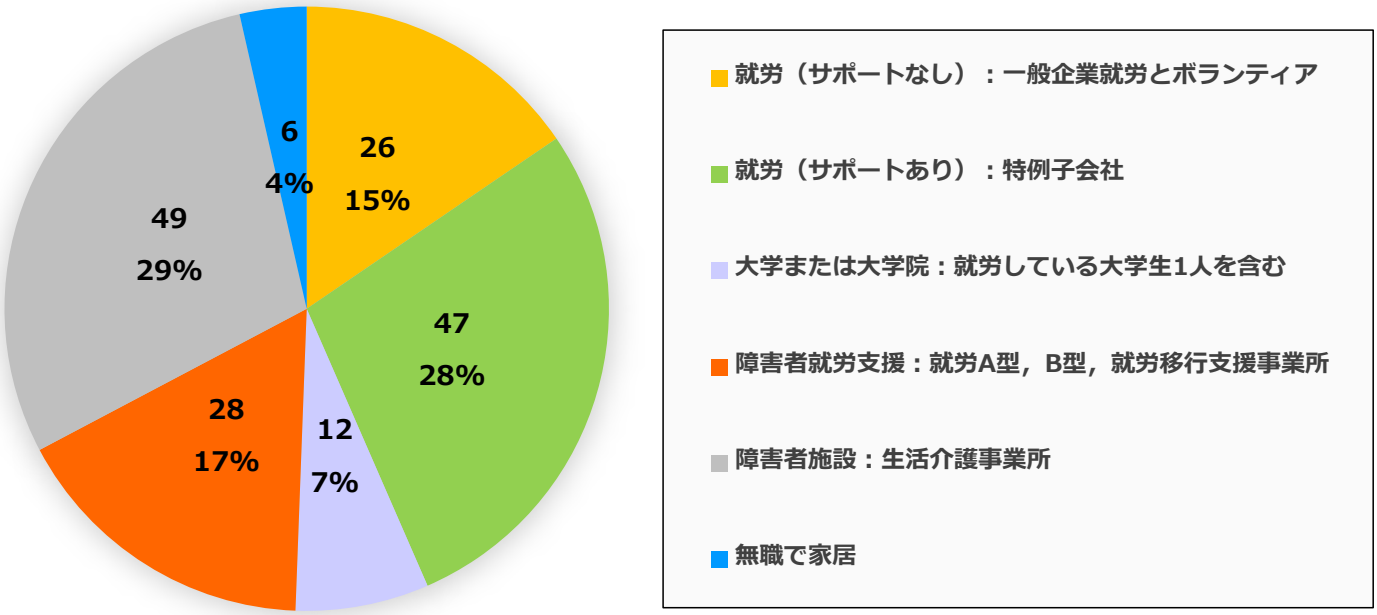
薬物療法

向精神薬の処方	人数（%）
処方歴あり（全体）	79 (47.0)
抗精神病薬	33 (19.6)
抗てんかん薬	24 (14.3)
睡眠導入薬	7 (4.2)
抗うつ薬	4 (2.4)
抗ADHD薬	4 (2.4)
調査時点で処方あり（全体）	45 (26.8)

(n = 168)

(Iwasa et al: J Child Psychol Psychiatry, 2022)

社会参加（就労・高等教育）
（N=168）



※　無職で家居の6人中4人は5歳時IQ>85で，義務教育期間中に特殊教育/特別支援教育を受けなかった。

(Iwasa et al: J Child Psychol Psychiatry, 2022)

ASD群とGP群の比較

■労働収入

ASDの有無は、労働収入200万円(※)未満であることに関連はなかった。
(オッズ比:0.82、95%信頼区間: 0.44-1.50、p=0.515)。
※200万円の基準はワーキングプア(working poverty)の指標として設定。

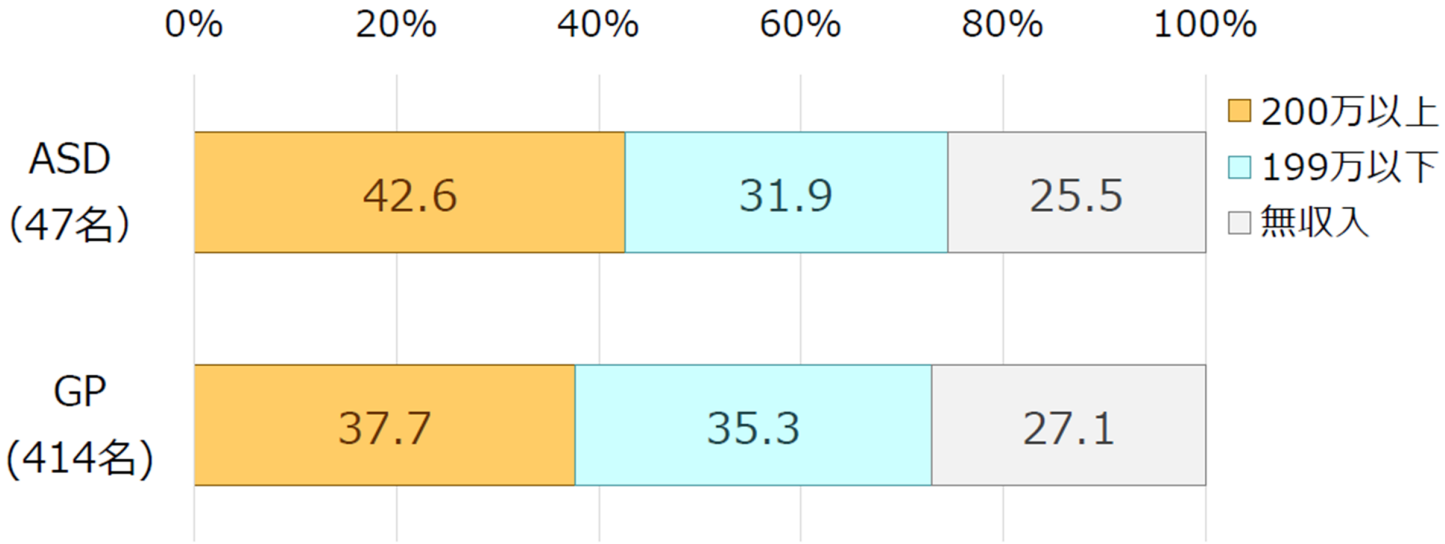


図1．労働収入の内訳

(大月 他: 第65回日本児童青年精神医学会総会ポスター発表, 2024)

ASD群47名の労働収入をめぐる実態

■雇用体系と労働収入

200万円以上の労働収入がある20名中、一般雇用13名、障害者雇用は7名。
障害者雇用15名全員が、100万円以上の労働収入を得ていた(図2)。

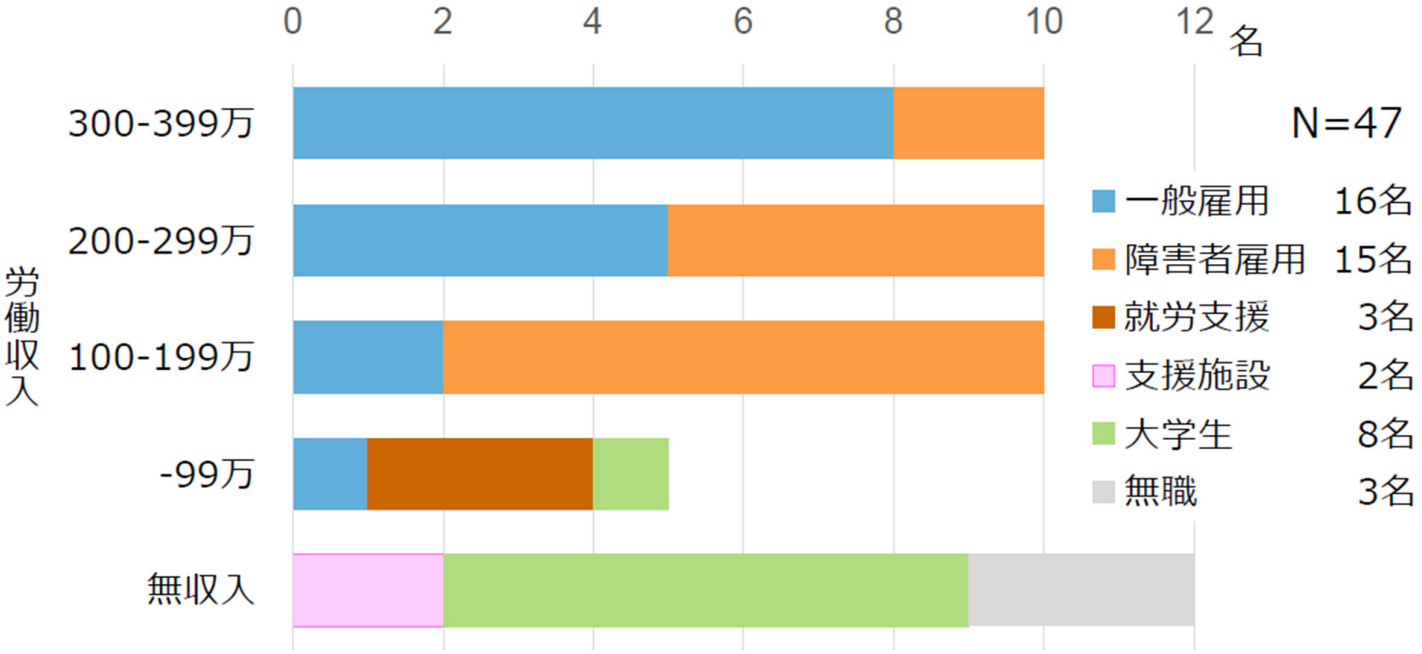


図2. ASD群における 労働収入別雇用体系

(大月 他: 第65回日本児童青年精神医学会総会ポスター発表, 2024)

ASD群47名の労働収入をめぐる実態

■雇用体系と最終学歴

学生を除く39名の雇用体系において、高学歴に一般雇用が多い傾向がみられたが、
4年制大学卒の36.3%(4名/11名)は障害者雇用であった(図3)。

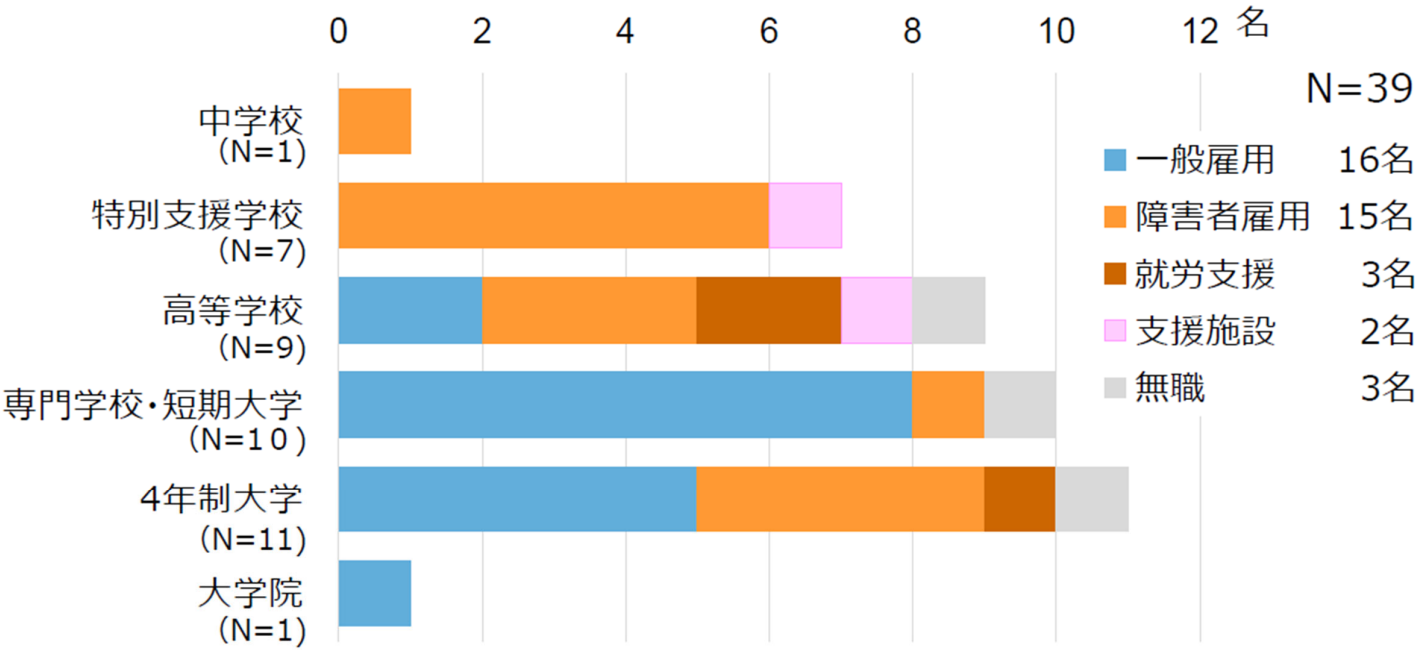


図3 ASD群における 最終学歴別雇用体系

(大月 他: 第65回日本児童青年精神医学会総会ポスター発表, 2024)

ASD群47名の労働収入をめぐる実態

■最終学歴と労働収入

特別支援学校卒と専門学校・短期大学および4年制大学卒(*大学院卒1名含む)の労働収入200万円以上の割合に異なる傾向は認められなかった。
なお、図4に記載のない中学校卒1名の労働収入は100万円台であった。

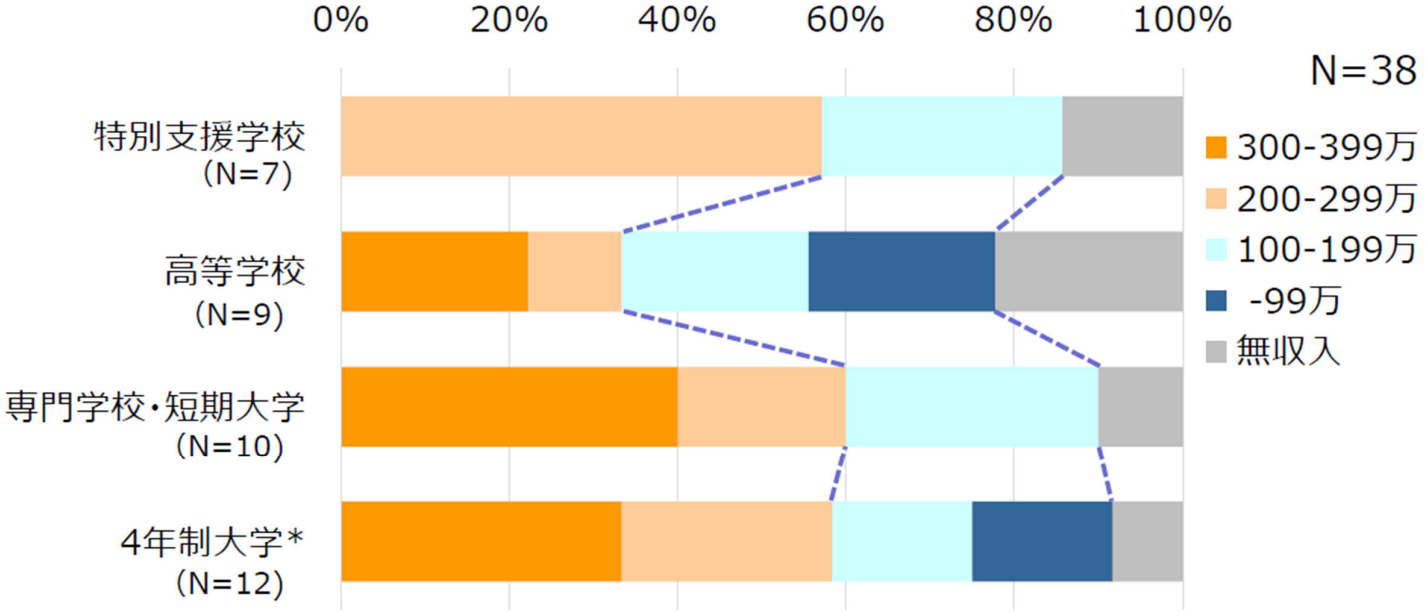


図4　ASD群における　最終学歴別労働収入

(大月 他: 第65回日本児童青年精神医学会総会ポスター発表, 2024)

架空事例Cさん：26歳男性

- 子どもの頃からうっかりミスが多かった。
- 両親はしつけや勉強に厳しく，頻繁に両親から叱責されて育った。
- 成績は中位で，私立大学では何度か追試を受けながらなんとか卒業し，地元の中小企業に就労した。
- 仕事を難しいと感じたが，先輩にわからないことを相談することができず，2か月ほどしたところで夜眠れず朝起きれなくなった。

架空事例Dさん：45歳女性

- 精神科受診歴や発達相談への相談歴はない。
- 交友は狭いが友だちは数人いた。成績上位で，一目置かれていた。
- 大学の文学部を優秀な成績で卒業し，事務職として企業就労した。
- 25歳のときに結婚し，退職。26歳のときに女児を出産。
- 子どもと遊ぶのは好きだったが，人形遊びは苦手。
- 「ママ友」が数名いたが，幅広い人づきあいは疲れた。
- 子どもが大学に入学後，事務のパート（週２回）を始めた。仕事ぶりは着実ですぐに信頼を得て，誘われて正社員になった。

Dさん：45歳で異変が

- 正社員になり，パートの従業員管理に負担を感じた。
- ルーズな人が気になって仕方ない。しかし細かく指摘し過ぎると相手も気を悪くすると思うと，悩む。
- 家でも考え込むことが増えた。
- 正社員になって半年ほどした頃から，中途覚醒，早朝覚醒，倦怠感，意欲低下，抑うつ気分が出現した。

生活の変化による事例化

好きなこと，やりたいこと中心の生活
興味のないことは，しなくてよい生活

↓

興味がないのに責任を伴う生活

ASD，ADHDの人たちの生活設計

Work-Life Balance ではなく

Duty-Fun Balance で考える

「ニューロダイバーシティ」モデルにもとづく支援のイメージ

社会的少数者の社会参加促進

- ストレスや逆境体験に晒されることの予防
- 生じてしまったストレス因関連障害への対応
- 本人が持てる力を発揮して意欲的に社会参加するための支援

合理的配慮

当事者が自分にメンタルヘルスの問題があることを開示し，配慮を求めてきた場合には，事業所はその人たちが業務に参加できるように過重な負担のない範囲で配慮する義務があると「障害者差別解消法」で定められている。

そのような配慮のことを「合理的配慮」という。

本人の認知様式に合わせた環境調整

- 理解しやすいモダリティ
- 理解しやすい用語と言い回し
- 理解しやすい筋道
- 自分で熟考して判断することの保障
- 意欲を持てるテーマや題材
- 感覚異常への配慮

選好性を軸にした支援計画を

- 能力を軸にした支援計画立案は，メンタルヘルスの視点からみてリスクが高い。
- 能力の高低でなく，興味の高低を軸にした支援を強調することにより，不要なエリート志向やその裏返しであるスティグマを予防できる。
- たとえ本人の能力が収入に反映されなくても，メンタルヘルスを保ちながら福祉を利用して社会参加する選択肢を自ら選ぶことができる。

過剰適応への対策

- 自ら希望していないのに新しいチャレンジを促してはならない
- 方針を視覚化し，アドリブ厳禁
- 本人が無理なくてきて，意欲をもてるものだけを提示する
- ステップアップを急がない

二次障害の予防：職場への啓発

- 適材適所
- ハラスメントの予防
- 「やる気」だけで評価しない
- オフにやりたい活動ができているか確認する

「しなくていいこと」を決める

ASDの場合

- あいさつ，雑談
- 気配り，忖度
- 周りに合わせること

ADHDの場合

- 時間厳守
- 日々の積み重ね
- 良い姿勢

発達障害の人たちの就労スローガン

- 仕事は遊び半分でやれ
- 仕事は休み休みやれ
- スタートダッシュは，絶対にするな

同じ職場に戻るとき

- その職場の業務自体は苦ではない。
- ストレスを避けられるよう配慮された。
- Duty-Fun Balanceが改善した。

同じ職場に戻らないとき

- その職場の業務自体が苦である。
- ストレスを避けられない。
- Duty-Fun Balanceが改善していない。

ダイバーシティ & インクルージョン

- 相性が最悪の人たちとも同じ社会で暮らすこと
- 多様な特性の人たちが，同程度の負担感で参加できる社会づくり

共生のポイント

すべての人に対して

- 多様な視点があることを知る
- 異なる立場の人を疎外しない
- 異なる立場の人に不要な攻撃をしない
- 自分の視点を他者に強要しない

社会的弱者を守るため

- 法制度やルールを整備する

支援者の役割

少数派である発達障害の人たちと

多数派向けに構成された社会との

インターフェイス

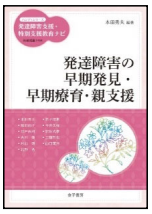
参考図書

専門家向け

「アスペルガー症候群のある子どものための　新 キャリア教育
－小・中学生のいま，家庭と学校でできること－」
本田秀夫，日戸由刈（編著）　金子書房（2013年）

「子どもから大人への発達精神医学－自閉症スペクトラム・ADHD・知的障害の基礎と実践」
本田秀夫（著）　金剛出版　（2013年）

「発達障害の早期発見・早期療育・親支援」
本田秀夫（編著）　金子書房　（2016年）



「知的障害・発達障害のある子どもの住まいの工夫ガイドブック
－危ない！困った！を安全・安心に－」
西村顕，本田秀夫（著）　中央法規（2016年）

参考図書

専門家向け

「知ってほしい 乳幼児から大人までのADHD・ASD・LD ライフサイクルに沿った発達障害支援ガイドブック」
　齊藤万比古，小枝達也，本田秀夫（編集）　診断と治療社（2017年）

「こころの医学入門: 医療・保健・福祉・心理専門職をめざす人のために」
　近藤直司，田中康雄，本田秀夫（編集）　中央法規　（2017年）

「自閉スペクトラム症の理解と支援 ― 子どもから大人までの発達障害の臨床経験から」
　本田秀夫（著）　星和書店　（2017年）

「おとなの自閉スペクトラム ― メンタルヘルスケアガイド」
　本田秀夫（監修），大島郁葉（編集）　金剛出版　（2022年）

参考図書

専門家向け

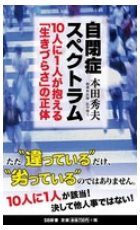
「講座 精神疾患の臨床9巻：神経発達症群」
　本田秀夫（編集）　中山書店　（2024年）

「新訂増補 子どもから大人への発達障がい精神医学
　－神経発達症の理解と支援－」
　本田秀夫（著）　金剛出版　（2025年）

「はじめてまなぶ自閉スペクトラム症－診断から実践へ－」
　本田秀夫（著）　金剛出版　（2025年）

参考図書

一般向け



「自閉症スペクトラム－10人に1人が抱える「生きづらさ」の正体－」

本田秀夫(著)　SB新書　(2013年)

「自閉症スペクトラムがよくわかる本」

本田秀夫(監修)　講談社　(2015年)

「大人の自閉症スペクトラム」(DVDセット全3巻)

本田秀夫(監修)　NHK厚生文化事業団　(2016年)

「なぜアーティストは生きづらいのか？－個性的すぎる才能の活かし方－」

手島将彦，本田秀夫(著)　リットーミュージック　(2016年)

参考図書

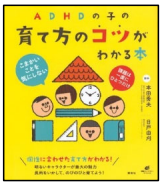
一般向け

「自閉症スペクトラムの子のソーシャルスキルを育てる本－幼児・小学生編」

本田秀夫，日戸由刈(監修)　講談社　(2016年)

「自閉症スペクトラムの子のソーシャルスキルを育てる本－思春期編」

本田秀夫，日戸由刈(監修)　講談社　(2016年)



「ADHDの子の育て方のコツがわかる本」

本田秀夫，日戸由刈(監修)　講談社　(2017年)

「ひとりひとりの個性を大事にする にじいろ子育て」

本田秀夫　講談社　(2018年)

参考図書

一般向け

「発達障害がよくわかる本」

本田秀夫（監修）　講談社　（2018年）

「発達障害－生きづらさを抱える少数派の『種族』たち－」

本田秀夫（著）　SB新書　（2018年）

「最新図解 女性の発達障害サポートブック」

本田秀夫，植田みおり（著）　ナツメ社　（2019年）

「あなたの隣の発達障害」

本田秀夫（著）　小学館　（2019年）

参考図書

一般向け

「『しなくていいこと』を決めると，人生が一気にラクになる－精神科医が教える『生きづらさ』を減らすコツ－」

本田秀夫（著）　ダイヤモンド社　（2021年）

「子どもの発達障害－子育てで大切なこと，やってはいけないこと－」

本田秀夫（著）　SB新書　（2021年）

「学校の中の発達障害－「多数派」「標準」「友達」に合わせられない子どもたち－」

本田秀夫（著）　SB新書　（2022年）

「10代からのメンタルケア『みんなと違う』自分を大切にする方法」

本田秀夫（著）　KADOKAWA　（2023年）

参考図書

一般向け

「マンガでわかる 発達障害の子どもたち－自閉スペクトラムの不可解な行動には理由がある－」

本田秀夫（著） フクチマミ（マンガ） SBクリエイティブ （2023年）

「知的障害と発達障害の子どもたち」

本田秀夫（著） SBクリエイティブ （2024年）

「発達障害の子どもの育ちを支える」（福祉ビデオシリーズ）

本田秀夫（監修） NHK厚生文化事業団 （2024年）

「発達障害・『グレーゾーン』の子の不登校大全」

本田秀夫（著） バトン社 （2025年）

参考図書

一般向け

「児童精神科医が語る あらためてきちんと知りたい発達障害」

篠山大明（著） 慶応義塾大学出版会 （2023年）

「かがやけ！なないろキッズ－発達障害すくすくサポートアドバイス」

新美妙美（著） 信濃毎日新聞社 （2022年）

法人・事業所向け

「発達障害－職場における理解と支援－」

本田秀夫（監修） ライズファクトリー （2020年）